

# 2022年度 大学院(修士課程)入学試験問題

(社会学研究科 社会学専攻)

(科目名:日本語)

2022年2月19日(土)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

問題1. 以下の文章を読んで、問1～問4に答えなさい。解答は、別紙解答用紙に書きなさい。

歴史的に見ると、かつての地域社会では「おたがいさま」といった (A) そうごふじよ により人々の暮らしが支えられてきた。日常生活における不安や悩みを相談できる相手があり、また (B) 世帯 の状況の変化を周囲が気づき支えるという関係性のある地域が身近に存在していた。しかし、戦後、急速な高度成長を遂げる中で、世代間の価値観の差の拡大、 (C) 核家族化、 (D) 人々の移動性・流動性の高まりを背景として地縁や血縁といった伝統的なつながりが弱くなってきた。さらに、成熟した社会において、人々が個人の自由を求める中で、家族の中でも一人一人が孤立し、少子高齢化の中で世帯のさらなる少人数化が進むなど、地域社会を構成する基本である家族のつながりも弱まってきている。

このような中で、地域の人と人のつながりは弱まり、地域への (E) きぞくいしき は低下するなど、地域社会の (F) 脆弱化 が進んできている。特に都市部において地域の助け合いの機能が次第に縮小しているが、農村部においても、高齢化や人口流出によって、そのような機能が (G) ていたい しているところも多い。その結果、育児不安があっても気軽に愚痴を言い相談できる相手がいない子育て世代や、生活において身の回りの困り事が生じて頼める相手がいない (H) 単身高齢者 など、地域において孤立する世帯が、世代を問わず生じている。

このような社会構造の変化に対応し、我が国では、これまで家庭や地域が果たしてきた支え合いの機能を、介護や保育など公的な支援制度を整備することで (I) だいたい してきた。そして、今では、公的な支援制度が生活を支える中心的な役割を担うこととなっている。しかしながら、共働き世帯の増加や高齢者の増加により子育てや介護の支援がこれまで以上に必要となり、高齢者介護・障害者福祉・子育て支援・(J) 生活困窮 等様々な分野において、核家族化、ひとり親世帯の増加、地域のつながりの (K) きはくか 等により家族又は地域内の支援力が低下しているという状況の中では、(L) 地域全体で支える力を再構築することが求められる。一昔前の日本に戻るということではなく、今の時代に適した形で、地域から孤立しない取組みを進めていく地域を一つでも多く増やしていくことが期待される。

(出典 『平成28年版 厚生労働白書』 pp.201-202.)

問1. 次の漢字の読みを書きなさい。(配点: 3点×5)

(ア) 世帯 (イ) 核家族化 (ウ) 脆弱化 (エ) 単身高齢者 (オ) 生活困窮

問2. 次のひらがなを漢字で書きなさい。(配点: 3点×5)

(A) そうごふじよ (B) きぞくいしき (C) ていたい (D) だいたい (E) きはくか

問3. 下線部①が表す内容を説明しなさい。(字数は自由) (配点: 10点)

問4. 下線部②の「地域全体で支える力を再構築する」方法として、具体的にどのようなことが考えられますか。あなた自身の考えを述べなさい。(字数は自由) (配点: 20点)

得点

# 2022年度 大学院(修士課程)入学試験問題

(社会学研究科 社会学専攻)

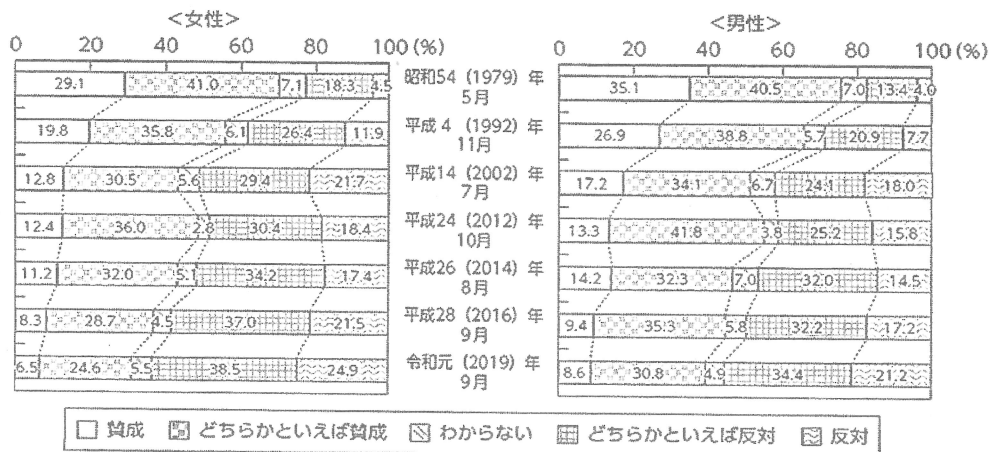
(科目名:日本語)

2022年2月19日(土)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

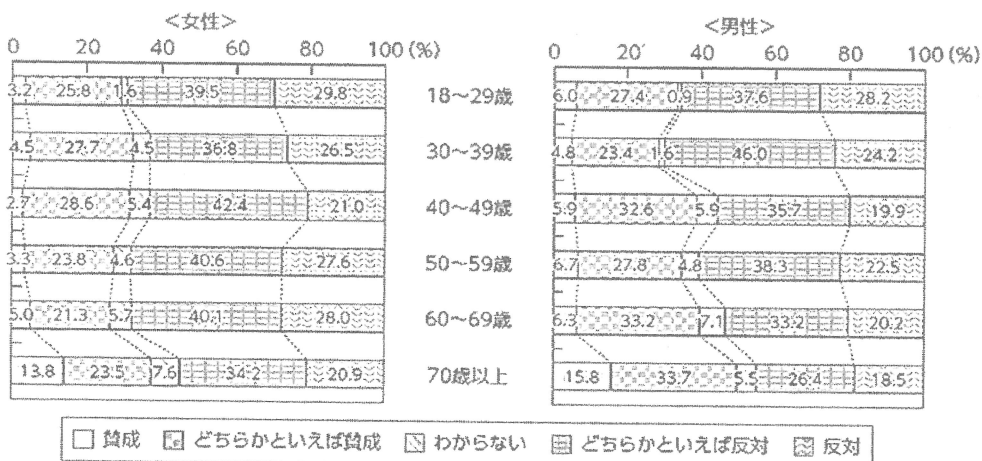
問II. 以下は、日本の内閣府による調査の結果で、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に関する意識の変化について、調査年および回答者の年代による違いを表したグラフです。これらのデータから読み取れることを300字程度にまとめなさい。(配点:40点)

I-3-4図 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に関する意識の変化



(備考) 1. 総理府「婦人に関する世論調査」(昭和54年)及び「男女平等に関する世論調査」(平成4年)、内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成14年、24年、28年、令和元年)及び「女性の活躍推進に関する世論調査」(平成26年)より作成。  
 2. 平成26年以前の調査は20歳以上の者が対象。平成28年及び令和元年の調査は、18歳以上の者が対象。

I-3-5図 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に関する意識の現状



(備考) 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和元年)より作成。

出典: 内閣府『男女共同参画白書 令和3年版』第3章  
[https://www.gender.go.jp/about\\_danjo/whitepaper/r03/zentai/html/zuhyo/zuhyo01-03-04.html](https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r03/zentai/html/zuhyo/zuhyo01-03-04.html)

得点

# 2022年度 大学院(修士課程)入学試験問題

(社会学研究科 社会福祉学専攻)

(科目名:日本語)

2022年2月19日(土)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

問題1. 以下の文章を読んで、問1～問4に答えなさい。解答は、別紙解答用紙に書きなさい。

歴史的に見ると、かつての地域社会では「おたがいさま」といった <sup>(A)</sup> そうごふじよ により人々の暮らしが支えられてきた。日常生活における不安や悩みを相談できる相手があり、また <sup>(ア)</sup> 世帯 の状況の変化を周囲が気づき支えるという関係性のある地域が身近に存在していた。しかし、戦後、急速な高度成長を遂げる中で、世代間の価値観の差の拡大、 <sup>(イ)</sup> 核家族化、 <sup>(イ)</sup> 人々の移動性・流動性の高まりを背景として地縁や血縁といった伝統的なつながりが弱くなってきた。さらに、成熟した社会において、人々が個人の自由を求める中で、家族の中でも一人一人が孤立し、少子高齢化の中で世帯のさらなる少人数化が進むなど、地域社会を構成する基本である家族のつながりも弱まってきている。

このような中で、地域の人と人のつながりは弱まり、地域への <sup>(B)</sup> きぞくいしき は低下するなど、地域社会の <sup>(ウ)</sup> 脆弱化 が進んできている。特に都市部において地域の助け合いの機能が次第に縮小しているが、農村部においても、高齢化や人口流出によって、そのような機能が <sup>(C)</sup> ていたい しているところも多い。その結果、育児不安があっても気軽に愚痴を言い相談できる相手がいない子育て世代や、生活において身の回りの困り事が生じても頼める相手がいない <sup>(ニ)</sup> 単身高齢者 など、地域において孤立する世帯が、世代を問わず生じている。

このような社会構造の変化に対応し、我が国では、それまで家庭や地域が果たしてきた支え合いの機能を、介護や保育など公的な支援制度を整備することで <sup>(D)</sup> だいたい してきた。そして、今では、公的な支援制度が生活を支える中心的な役割を担うこととなっている。しかしながら、共働き世帯の増加や高齢者の増加により子育てや介護の支援がこれまで以上に必要となり、高齢者介護・障害者福祉・子育て支援・ <sup>(オ)</sup> 生活困窮 等様々な分野において、核家族化、ひとり親世帯の増加、地域のつながりの <sup>(B)</sup> きはくか 等により家族又は地域内の支援力が低下しているという状況の中では、 <sup>(E)</sup> 地域全体で支える力を再構築することが求められる。一昔前の日本に戻るといえるのではなく、今の時代に適した形で、地域から孤立しない取組みを進めていく地域の一つでも多く増やしていくことが期待される。

(出典 『平成28年版厚生労働白書』pp.201-202.)

問1. 次の漢字の読みを書きなさい。(配点：3点×5)

(ア) 世帯 (イ) 核家族化 (ウ) 脆弱化 (ニ) 単身高齢者 (オ) 生活困窮

問2. 次のひらがなを漢字で書きなさい。(配点：3点×5)

(A) そうごふじよ (B) きぞくいしき (C) ていたい (D) だいたい (E) きはくか

問3. 下線部①が表す内容を説明しなさい。(字数は自由)(配点：10点)

問4. 下線部②の「地域全体で支える力を再構築する」方法として、具体的にどのようなことが考えられますか。あなた自身の考えを述べなさい。(字数は自由)(配点：20点)

得点

2022年度 大学院(修士課程)入学試験問題

(社会学研究科 社会福祉学専攻)

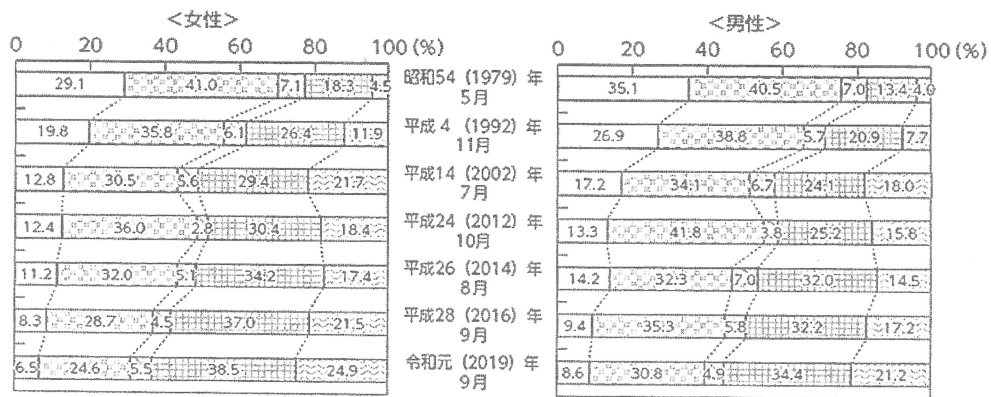
(科目名:日本語)

2022年2月19日(土)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

問Ⅱ. 以下は、日本の内閣府による調査の結果で、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に関する意識の変化について、調査年および回答者の年代による違いを表したグラフです。これらのデータから読み取れることを300字程度にまとめなさい。(配点:40点)

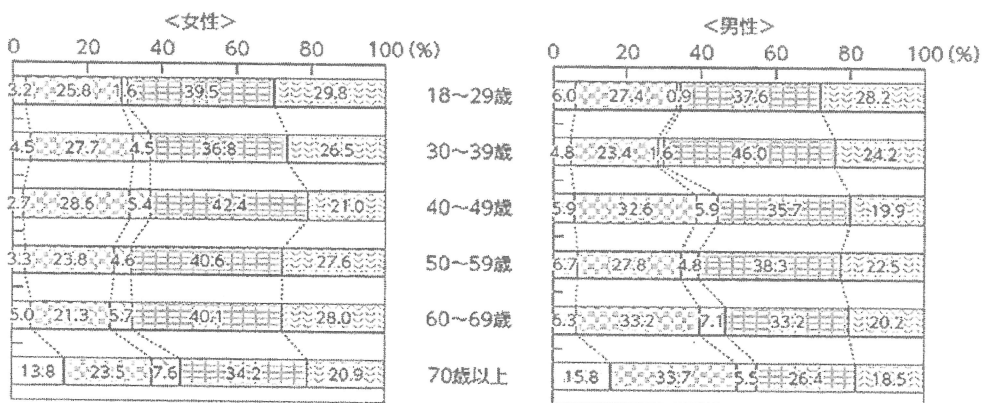
I-3-4図 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に関する意識の変化



□ 賛成    ▨ どちらかといえば賛成    ▩ わからない    ▧ どちらかといえば反対    ▦ 反対

(備考) 1. 総理府「婦人に関する世論調査」(昭和54年)及び「男女平等に関する世論調査」(平成4年)、内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成14年、24年、28年、令和元年)及び「女性の活躍推進に関する世論調査」(平成26年)より作成。  
2. 平成26年以前の調査は20歳以上の者が対象。平成28年及び令和元年の調査は、18歳以上の者が対象。

I-3-5図 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に関する意識の現状



□ 賛成    ▨ どちらかといえば賛成    ▩ わからない    ▧ どちらかといえば反対    ▦ 反対

(備考) 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和元年)より作成。

出典: 内閣府『男女共同参画白書 令和3年版』第3章  
[https://www.gender.go.jp/about\\_danjo/whitepaper/r03/zentai/html/zuhyo/zuhyo01-03-04.html](https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r03/zentai/html/zuhyo/zuhyo01-03-04.html)

得点

## 2022年度 大学院(修士課程)入学試験問題

(社会学研究科 社会学専攻 社会学コース)

(科目名:社会学概論)

2022年2月19日(土)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

### 【問1】

次にあげた[A群]、[B群]、[C群]の用語からそれぞれ1つ選んで、それらについて説明しなさい。なお、その際に選択した番号も記入してください。

#### [A群]

- ①個人化
- ②アイデンティティ
- ③ヘビトウス

#### [B群]

- ④限界集落
- ⑤自治会・町内会
- ⑥コモンズ

#### [C群]

- ⑦相関係数
- ⑧量的調査
- ⑨参与観察

### 【問2】

社会学研究科に進学した後、どのような研究課題に取り組む予定ですか。そして、その研究課題に、どのような社会学的な視点から取り組もうと思っておりますか。また、その研究の学問的な価値はどこにあると思えますか。現時点におけるあなたの考えを述べてください。

2022 年度 大学院（修士課程）入学試験問題

（社会学研究科 社会学専攻 ジャーナリズムコース）

（科目名：マス・コミュニケーション論）

2022 年 2 月 19 日（土）

受験番号		氏名	
------	--	----	--

以下の枠の中から言葉を 4 つ選び、説明しなさい。□は A～P の記号を記入する欄です。

(A) GAFA	(B) 表現の自由	(C) 忘れられる権利	(D) 輿論（世論）
(E) ゲート・キーパー	(F) ニュース砂漠	(G) YouTuber	(H) 新華網
(I) ウォッチドッグ	(J) 公共放送	(K) フェイクニュース	(L) 寝そべり主義（躺平主義）
(M) メディア・イベント	(N) 地方紙	(O) 記者会見	(P) 網紅

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----



-----

-----

-----

-----

-----



-----

-----

-----

-----

-----

得点

# 2022 年度 大学院(修士課程)入学試験問題

(社会学研究科 社会福祉学専攻)

(科目名:社会福祉原論)

2022 年 2 月 19 日(土)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

下記の設問について、それぞれ解答用紙に解答を記入せよ。文字数は任意とする。

問 1. 「福祉多元主義」の中で、日本の社会福祉法人の果たすべき役割について述べよ。

問 2. 今後の社会福祉における多職種連携の役割と課題について述べよ。分野を限定する場合は、最初にどの分野について述べるかを明記すること。

得点



2022年度 大学院（修士課程）入学試験問題

（社会学研究科 社会学専攻 ジャーナリズムコース）

（科目名：論文試験）

2022年2月19日（土）

受験番号		氏名	
------	--	----	--

あなたが大学院で取り組みたい研究課題は何ですか。なぜその研究課題を選んだのか、そして、研究課題の背景にはどのような問題があるのかを述べなさい。（字数は問いません）

# 2022年度 大学院(修士課程)入学試験問題

(社会学研究科 社会福祉学専攻)

(科目名:論文試験)

2022年2月19日(土)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

<問題>

現在、厚生労働省は「地域共生社会の実現」を基本コンセプトとして様々な取り組みを進めようとしています。  
あなたが関心のある社会福祉分野を一つ取り上げ、地域共生社会との関連で課題や展望を述べなさい。

得点